

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	美術		
英文授業科目名	Arts		
開講年度	2008年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	古屋 祐子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
責任教員・島内景二 < shimauch@bunka.uec.ac.jp >	

【主題および達成目標】
日本の美術作品に関する基礎的な知識を修得すると共に、各時代の作品の鑑賞を通じて日本人の美に対する感覚や、今日まで継承されてきた伝統を捉えることを目的とする。

【前もって履修しておくべき科目】
無し

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
無し

【教科書等】
<p>[教科書] 使用しない。代わりに図版等の資料プリントを毎時間配布する。</p> <p>[参考書] 教科書に準じる1冊として、次の書籍を紹介しておく。</p> <p style="text-align: center;">辻惟雄著『日本美術の歴史』（2005年初版、東京大学出版会）</p> <p style="text-align: center;">その他の参考書については初回の講義の折に提示する。</p>

【授業内容とその進め方】

縄文時代から江戸時代までの日本の美術作品の特徴を見ていく。資料プリントを基に講義をした後、スライドを用いて作品を鑑賞し理解を深める。各回の講義予定は以下の通り。

第1回 縄文・弥生・古墳時代...原始美術(土器、土偶、埴輪、古墳壁画)

第2回 飛鳥時代...法隆寺の美術

第3回 奈良時代(1)...古典様式の完成(仏像、仏画)

第4回 奈良時代(2)...工芸の技と美(正倉院宝物)

第5回 平安時代(1)...前期(唐風志向期)の美術

第6回 平安時代(2)...中期(和風完成期)の美術

第7回 平安時代(3)...後期(院政期)の美術

第8回 鎌倉時代...写実の美(肖像、仏像、仏画、絵巻)

第9回 室町時代(1)...前期(南北朝~北山時代)の美術

第10回 室町時代(2)...後期(東山~戦国時代)の美術

第11回 江戸時代(1)...桃山~江戸時代前期の美術

第12回 江戸時代(2)...中期(18世紀)の美術

第13回 江戸時代(3)...後期(19世紀)の美術

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

[評価方法] レポート(30%)、期末試験(70%)により評価する。

但し、出席7回以上をレポート提出及び期末受験の条件とする。

[評価基準] レポート：課題に従った内容となっていること。

期末試験：基礎的な用語が理解できていること、作品の造形上の特徴をつかんでいること。

【オフィスアワー：授業相談】

授業終了時から30分程度。

【学生へのメッセージ】

西洋化した生活を送る現代において、日本の、しかも近代以前の美術は本当に遠い存在になってしまった。しかしそれらは、西洋ではない、中国でもない、日本のものの捉え方や感じ方、何を善しとしたのかという価値の基準などを考える契機を我々に与えてくれる。

【その他】